

科目名	建築計画Ⅳ							
科目名(英)	Architectural Planning Ⅳ							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	赤星 亜美	
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年							
授業概要	社会的状況により建築計画も大きく変わってきます。あらゆる施設の条件的な成り立ちを理解することは、新しい形状を見つけ出すためには重要な資料となる。この授業では、施設計画の裏付けを理解し、自ら設計提案できる力を身につけることを目的とする。							
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技: ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				既存の建築計画の調査、研究が出来る		
	○	○				事務所ビルの理解ができ計画が出来る		
	○	○				音楽ホール、劇場の構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる		
	○	○				百貨店、スーパーマーケットの構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる		
	○	○				宿泊施設、駐車場の構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる		
テキスト・教材 参考図書	テキスト:初学者の建築講座 建築計画(改訂版) 参考図書:カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代、コンパクト建築設計資料集成、ホテル・旅館 市ヶ谷出版、「新建築」等の建築雑誌 その他							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	ガイダンス 6-1規模計画と経済効率					予習・復習することを心がける。	
	2	6-2事務所ビル 事務所ビルの変遷					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	3	6-2事務所ビル 事務所ビルの計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	4	6-2事務所ビル 各室計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	5	6-3劇場・音楽ホールの変遷					前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。	
	6	6-3劇場・音楽ホールの計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	7	6-3劇場・音楽ホール 客席・舞台の計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	8	6-4百貨店・スーパーマーケットの変遷					前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。	
	9	6-4百貨店・スーパーマーケット 大規模小売店舗の計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	10	6-4百貨店・スーパーマーケット 売場場の計画・駐車場					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	11	6-5 宿泊施設 定義・種類・分類・機能・基本条件					前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。	
	12	6-5 宿泊施設 構成要素・部門・所要室・規模					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	13	6-5 宿泊施設 ゾーニング・動線計画宿泊施設					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	14	6-5 宿泊施設 6-6 駐車場					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	15	総括 I					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	○				80%	
	小テスト	○	○				10%	

	宿題・レポート	○	○				10%
<b>履修上の注意</b>	上記評価及び出席率60%が単位付与条件とする。						

科目名	建築環境工学									
科目名(英)	Architectural Environmental Engineering									
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	竹田 真志					
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験						
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年									
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立て、二級建築試験における学科Ⅱ(環境工学)の問題に対応出来るようになる									
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関連する各図を読み解くことができる				
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の特徴と留意事項について説明できる				
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関して計算式を用いて必要な数値を算出することができる				
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の課題点と対策について述べるることができる				
テキスト・教材 参考図書	建築環境工学 オリジナルプリント 市ヶ谷出版									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	建築環境工学の役割								
	2	太陽位置と日照・日影の関係					教科書予習する			
	3	日影曲線・日影時間					教科書予習する			
	4	日射量・日射調節					教科書予習する			
	5	光環境・測光量・照度計算					教科書予習する			
	6	明視条件・採光					教科書予習する			
	7	採光による照度計算・採光計画					教科書予習する			
	8	人工照明・照度計算(光束法)					教科書予習する			
	9	色彩の表し方・表色法					教科書予習する			
	10	色彩の効果・色彩計画					教科書予習する			
	11	室内空気汚染物質と許容濃度					教科書予習する			
	12	各汚染物質に伴う必要換気量の計算					教科書予習する			
	13	自然換気の種類と風力換気の計算					教科書予習する			
	14	自然換気・温度差換気の計算・通風					教科書予習する			
	15	機械換気方式・換気計画					期末試験のため今までの振り返りをする。			
評価方法	期末試験結果と授業内での理解度確認テストの結果による。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	○				80%			
	小テスト	○	○				10%			
	宿題・レポート	○	○				10%			
履修上の注意	出席率60%が単位付与条件とする。									

科目名	建築設備						
科目名(英)	Building Facilities						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	峯元 幹雄		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	総合メーカー-建築技術担当。建材・都市開発・住宅部門従事		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習: -	実習: -	実技: -	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築設備の役割・種類・構成を説明できる	
	○	○				空気調和方式の種類・特徴を説明できる	
	○	○				空気線図を読み解き、空調負荷について説明することができる	
	○	○				建築計画における省エネ手法を導き出せる	
	○	○				昇降機設備の種類と仕組みを理解する。	
テキスト・教材 参考図書	初学の建築講座 建築設備 第3版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	建築設備概要(1・1建築設備とは)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	給排水衛生設備 2・1給排水衛生設備とは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	2・2給水設備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	2・3給湯設備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	2・5排水・通気設備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	2・6排水処理設備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	2・7衛生器具設備 2・8消火設備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	空気調和設備 3・1空気調和設備とは 3・2空気調和と室内環境			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	3・3空気の状態を知る 3・4空調負荷の考え方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	3・5空気調和方式の種類 3・6熱源・熱搬送設備と機器部材			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	3・7換気・排煙設備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	電気設備 4・1電気設備とは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	4・2受変電・幹線設備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	4・5照明・コンセント設備 4・6情報・通信設備搬送設備 5・1・1エレベーター			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	まとめ			本科目における学習内容を復習しておくこと		
評価方法	定期試験規定にもとづき、試験(筆記)を実施する。小テスト及び宿題レポートを数回実施する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	○	◎				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築構造力学Ⅲ						
科目名(英)	Building Structural Mechanics Ⅲ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	古賀 俊光		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて建築デザインに従事		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	建築構造物が荷重などに対してどのように変形し、構造物にどのような応力が発生するのかを計算できるように基礎知識の習得を目的とする。構造力学Ⅲでは、不静定構造を対象として、応力度・ひずみ度の算定、材料の性質、許容応力度設計の考え方、断面の性質などについて学び、不静定梁のたわみと断面力算定、たわみ角法および固定法による不静定骨組の断面力算定法などについて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				断面一次モーメント・図心を算出することができる。	
	○	○				断面二次モーメント・断面係数を算出することができる。	
	○	○				応力度を算出することができる。	
	○	○				座屈についての算出することができる。	
○	○				梁の変形についての算出することができる。		
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	断面の性質(1)断面一次モーメント・図心					
	2	断面の性質(2)断面二次モーメント・断面係数				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	応力度(1)軸応力度				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	応力度(2)曲げ応力度				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	応力度(3)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	座屈・確認試験				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	梁の変形				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	不静定構造とは、剛比の計算				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	固定モーメント法(1)材端モーメント・分割モーメント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	確認試験(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	多層ラーメンの応力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	弾性と塑性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	全塑性モーメント、崩壊荷重				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	力学Ⅲの総まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを実施する。 (3)宿題を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート	○	◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築法規 Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	徳田 美穂子		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	建築物の設計、施工に必要な不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築法規のそれぞれの条文を理解し、説明することができる。	
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。	
	○	○				建築法規に規定する事項を学び、関連法令と合わせた順守すべき事項を説明することができる。	
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。	
テキスト・教材 参考図書	・総合資格学院編 建築関係法令集 法令編						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	高さ制限1			事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	2	高さ制限2			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	3	高さ制限3、日影			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	4	内装制限1			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	5	内装制限2			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	6	防火区画等①			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	7	防火区画等②			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	8	避難施設1(避難施設が必要な建築物)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	9	避難施設2(避難階段と特別避難階段)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	10	避難施設3			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	11	その他の法令1(建築士法)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	12	その他の法令2(建築士法、建設業法)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	13	その他の法令3(バリアフリー法、耐震改修法)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	14	その他の法令4(品確法、長期優良住宅)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
15	その他の法令5(消防法)			定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	○	◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	AutoCAD I						
科目名(英)	AutoCAD practice I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	福光 春子		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築学科(昼)2年						
授業概要	AutoCADの基本操作を学び、建築図面の作図方法を理解し、実務において効率的な設計や作図ができるようになる方法とコマンドの使い方を学習する。正しい図面の表記を学びながら作図を実践し、即戦力として活躍できるための技術を身につける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		覚えたコマンドを効果的に活用して図面のトレースを行うことができる。	
	○	○	○			用紙サイズ、縮尺、寸法など製図のルールを理解して作図することができる。	
	○	○	○	○		木造住宅の各種図面(平面・断面・立面)を作図できる	
		○	○			自ら用途に応じてAutoCADの各種設定を行うことができる。	
○	○	○			レイアウト空間を使って印刷をすることができる。		
テキスト・教材 参考図書	テキスト:オリジナルプリント 参考図書:超入門 建築製図(市ヶ谷出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【製図の基本を学ぶ】 AutoCADについて・製図の基礎知識・基本コマンド練習				練習問題を繰り返し練習 データ提出	
	2	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習				練習問題を繰り返し練習 データ提出	
	3	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習				練習問題を繰り返し練習 データ提出	
	4	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習				練習問題を繰り返し練習 データ提出	
	5	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習				練習問題を繰り返し練習 データ提出	
	6	【木造住宅意匠図】 配置図兼平面図				授業内容の復習	
	7	【木造住宅意匠図】 配置図兼平面図				授業内容の復習	
	8	【木造住宅意匠図】 配置図兼平面図				授業内容の復習	
	9	【木造住宅意匠図】 配置図兼平面図				授業内容の復習	
	10	【木造住宅意匠図】 屋根伏図				授業内容の復習	
	11	【木造住宅意匠図】 レイアウト空間設定・印刷				授業内容の復習 データ提出	
	12	【木造住宅意匠図】 断面図				授業内容の復習	
	13	【木造住宅意匠図】 断面図				授業内容の復習	
	14	【木造住宅意匠図】 立面図				授業内容の復習	
15	【木造住宅意匠図】 立面図・レイアウト空間設定・印刷				授業内容の復習 データ提出		
評価方法	(1)練習問題を実施する。(2)指定された課題を実施し、提出する。 (3)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	練習問題	○	○	○	○		10%
	課題提出状況		◎	◎	○		30%
	習熟度(スピードと正確さ)	○	◎	◎	○		60%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合、提出課題が未提出の場合は履修単位を与えない。						

科目名	3D・CAD I					
科目名(英)	3D・CAD(ArchiCad)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山崎 孝	
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年					
授業概要	2DCADを基本に、3DCADの基本操作を学ぶ。図面模写を繰り返し実力をつけ、オリジナルプランから仮想空間がデザインできるようになる。					
授業形式	講義	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○				A2D作図方法の操作 復習し、問題なく基本操作ができる。
		○				3D作図・プランニング3D作図の基本操作が問題なくできる。
		○				3D作図作業課題図面を用いて3D作図を完成させることができる
		○				<b>プランニング</b> 仮想施主であるパートナーとの3D作図を完成させることができる
テキスト・教材 参考図書	GRAFHISOFT Archi Cad-(Magic1)+オリジナル資料					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1・2	前授業の復習2D作図方法の操作			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	3・4	3D作図・プランニング3D作図の基本操作 3D作図・プランニング3D作図の概念の説明			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	5・6	3D作図・プランニング3D作図の基本操作 3D作図・プランニング課題図面を用いて3D作図①			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	7・8	3D作図作業課題図面を用いて3D作図②			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	9・10	3D作図作業課題図面を用いて3D作図③			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	11・12	3D作図作業課題図面を用いて3D作図④			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	13・14	3D作図作業課題図面を用いて3D作図⑤			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
15	3D作図作業課題図面を用いて3D作図⑥			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		

評価方法	2課題の提出・内容 以上の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	プレゼンボード前半課題提出		◎				50%
	プレゼンボード後半課題提出		◎				50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	Photoshop Illustrator III						
科目名(英)	Photoshop Illustrator 3						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	原 将史		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	IllustratorとPhotoshopの基本操作を踏まえ、建築パースの作成やレイアウトデザインの基本を学ぶ 主に例題に取り組むことにより、基本となるベーシックなデザインの手法を身につける						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				Illustratorの基本機能を踏まえたレイアウト処理ができる	
		○				Photoshopによる建築CGパースの補正とグラフィックの加工ができる	
		○				Photoshop - Illustrator のデータ特性を理解したイメージボードのレイアウトが作成できる	
テキスト・教材 参考図書	情報リテラシー Office2016						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	IllustratorとPhotoshopを連携したワーク(復習課題への取り組み)				Illustrator , Photoshop のインストール	
	2	Photoshop によるパース作成 レイヤー各種機能				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	3	Photoshop によるパース作成 フィルター、パターン、他				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	4	Photoshopによる施設建築のパース(内観)作成				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	5	Photoshopによる施設建築のパース(外観)作成				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	6	施設建築のパース(外観)作成～ 線画風加工パース作成				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	7	建築施設のパース(線画風加工)の作成				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	8	Illustrator を用いたレイアウトの基本デザイン 練習①				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	9	Illustrator を用いたレイアウトの基本デザイン 練習②				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	10	有名建築をテーマとしたレイアウトボードのデザイン①				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	11	有名建築をテーマとしたレイアウトボードのデザイン①～②				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	12	有名建築をテーマとしたレイアウトボードのデザイン②				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	13	建築イメージボードの練習作品 ～基本レイアウト～				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
	14	建築イメージボードの練習作品 ～配置写真加工～				授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと	
15	建築イメージボードの練習作品 ～タイトル・テキスト処理～						
評価方法	各テーマ作成課題を評価対象成果物として評価:7種実施、その提出により評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	各テーマ課題		◎				80%
	宿題		○				20%
履修上の注意	単位付与には、規定の授業回数の2/3以上の出席を必要条件とする。						

科目名	就職実務ⅡA						
科目名(英)	Employment practicesⅡA						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	各クラス担任		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築CAD科・インテリアデザイン科・建築学科(昼)2年 建築工学科3年						
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 就職活動における作品集作成や履歴書記入方法など、社会人になる上でのスキルを身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				就職活動における企業研究が行うことができる	
	○	○				自己分析を行うことができる	
	○	○				作品集を作成し就職活動ができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	履歴書の書き方					
	2	受験企業の研究し求人を探しリストアップ					
	3	自己分析作成と作品集ブラッシュアップ					
	4	志望理由チェックと作品集ブラッシュアップ					
	5	就職活動スケジュールを制作					
	6	就職活動状況の共有					
	7	ポートフォリオのブラッシュアップ					
	8	対象企業を意識した面接練習					
	9	対象企業を意識した面接練習(グループディスカッション)					
	10	受験企業の研究し求人を探しリストアップ					
	11	自己分析や志望理由チェック					
	12	就職活動状況の共有					
	13	求人情報の集め方や、管理の仕方					
	14	対象企業を意識した面接練習					
15	就職活動スケジュールを制作						
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	キャリア教育						
科目名(英)							
単位	2単位	時間数	30時間	担当者	各クラス担任		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	企業が求める人材を把握し、就職活動を円滑に進めるための意識付けと、求職票・履歴書の具体的な書き方や面接対策など、そのまま就職活動に活かせる実践的な演習を中心に授業を進めていく						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				自己分析を基に、自己PRをまとめることができる	
	○	○				企業の目線を意識した志望動機を書くことができる	
	○	○				面接時の基本的なマナーが身につく、問題なくふるまうことができる	
	○	○				面接官の質問に対し、問題なく受け答えができる	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動のための準備 ガイダンス					
	2	求職票の書き方 「自己PR」の書き方				自己の強みと弱みについて自分なりに自己分析しておくこと	
	3	求職票記入 下書き・添削					
	4	履歴書の書き方 「学生時代に力を入れたこと」「志望動機」など				自己の学生時代の経験、また希望企業への志望動機を自分なりに考えておくこと	
	5	求職票受付面接について 概要説明					
	6	求職票受付面接練習 入退室・立ち居振る舞い・おじぎ				授業内で学習したマナーは日常生活の中でも意識して行うこと	
	7	求職票受付面接練習 面接官の視点・第一印象について					
	8	求職票受付面接練習 質問と答え方、正しい敬語の使い方 ①					
	9	求職票受付面接練習 質問と答え方、正しい敬語の使い方 ②					
	10	求職票受付面接練習 通しで実践練習					
	11	求職票受付面接練習 通しで実践練習					
	12	求職票受付面接練習 通しで実践練習					
	13	企業研究 実際に合同企業説明会・セミナーに参加				参加する企業について、事業内容、事業規模等事前に調べておくこと	
	14	企業研究 実際に合同企業説明会・セミナーに参加					
15	いろいろな報告書の書き方 ビジネス文書の作成				学んだ文書の書き方について復習しておくこと		
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	検定対策ゼミ I (選択) インテリアコーディネーター				
科目名(英)	Architectural planning and design III				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	福田 昌彦
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	住宅メーカー、インテリア系企業にて商品企画開発者として勤務
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年				
授業概要	インテリア産業協会主催インテリアコーディネーター検定対策の学習を通して、建築概要とインテリアコーディネーター知識のより専門的な知識の習得を図る				
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				
	○				
学習目標 (到達目標)	目標				
	インテリアコーディネーター1次試験合格レベルの知識を身につけることができる				
	インテリアコーディネーター2次試験合格レベルの知識を身につけることができる				
テキスト・教材 参考図書	テキスト: インテリアコーディネーター合格教本(上・下) インテリアコーディネーター問題集(上・下) その他				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	ガイダンス/資格概要			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	2	1章 住宅と社会/2章 インテリア販売			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	3	9章 構造・構法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	4	3章 インテリアの歴史			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	5	10章 材料			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	6	3章 インテリアの歴史			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと
	7	10章 材料			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	8	4章 インテリア計画			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	9	11章 環境工学			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	10	5章 色彩と造形			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	11	11章 環境工学/12章 住宅設備			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	12	6章 家具			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	13	12章 住宅設備/13章 照明			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	14	6章 家具			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	15	13章 照明/14章 表現技法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	16	7章 ウィンドウトリートメント			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと
	17	15章 建築関連法規			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	18	8章 各種エレメント			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	19	16章 消費者関連法規			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	20	模擬試験			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	21	模擬試験			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	22	模擬試験			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと
	23	模擬試験			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
24	模擬試験			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	

	25	模擬試験	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	26	模擬試験	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	27	模擬試験	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	28	模擬試験	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	29	模擬試験	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	30	模擬試験	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
評価方法	(1)小テストを各章が修了した次の授業で実施する。(2)20回目から宿題あり。(3)全国模試を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	全国模試	○					50%
	小テスト	○					25%
	宿題	○					25%
履修上の注意							

科目名	検定対策ゼミ I (選択) 宅地建物取引士試験					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	森行 美枝	
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当	
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年					
授業概要	宅建試験の合格も視野に、試験の問題演習を通して、建築物を取引する不動産権利取引に関する知識を修得する。それにより、建築物の財産的価値の重要性を認識できる視点を養う。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				宅建業の業務内容と役割について宅建業法の条文規定を用いて説明できる
	○	○				宅地建物取引士の実務における重要事項を条文規定を用いて説明できる
	○	○				民法の権利義務関係について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%以上を出すことができる
	○	○				不動産取引手続きに関する問題について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%を出すことができる
テキスト・教材 参考図書	出る順 宅建士 ウォーク問過去問題集2018年版①～③ 【東京リーガルマインド】					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	用語の定義／免許制度／宅建士制度			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	2	営業保証金／保証協会／媒介契約等の規制			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	3	重要事項の説明／37条書面			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	4	8種制限／業務上の諸規制／監督・罰則			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	5	報酬／住宅瑕疵担保履行法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	6	単元テスト			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと	
	7	制限行為能力者／意思表示／代理			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	8	時効／不動産物権変動／物権関係			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	9	抵当権／保証・連帯保証／連帯債務			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	10	債権譲渡／債務不履行と解除／弁済・相殺／売買			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	11	賃貸借／委任・請負／不法行為			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	12	相続			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	13	借地借家法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	14	借地借家法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	15	区分所有法／不動産登記法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	16	単元テスト			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと	
	17	都市計画／開発許可制度			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	18	建築基準法(単体規定・集団規定)／宅地造成等規制法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	19	土地区画整理法／農地法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	20	国土利用計画法／諸法例			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	21	国土利用計画法／諸法例			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	22	単元テスト			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと	
	23	不動産取得税／固定資産税			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	

	24	不動産譲渡所得／登録免許税／印紙税／贈与税	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	25	地価公示法／不動産鑑定評価基準	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	26	住宅金融支援機構／景品表示法	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	27	土地／建物／統計	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	28	単元テスト	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	29	全国模擬試験①	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	30	全国模擬試験②	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
評価方法	(1)単元テスト(2)模擬試験の点数で評価する 成績評価基準は、平均正答率 S(90%以上)・A(80%以上)・B(70%以上)・C(60%以上)・D(59%以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	単元テスト	○	○				50%
	模擬試験	○	○				50%
履修上の注意	難しい法律用語が多々出てくるので、用語の意味をその都度細かく確認すること						

科目名	検定対策ゼミ I (選択) 2級建築施工管理技士資格試験						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	集路 正巳		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	2施工 学科試験合格を視野に、問題読解に必要な知識をポイントを絞り身につけていきます。また、理解度確認のため小テスト、模擬テストを複数回、実施し実力をつけていきます。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			建築施工に関する専門用語の意味を正しく説明できる。		
	○	○			小テストの平均正解率60%以上を獲得できる。		
	○	○			模擬テストの平均正解率60%以上を獲得できる。		
テキスト・教材 参考図書	①. 2級建築施工管理技士要点テキスト(2021年度版)市ヶ谷出版社 ②. 2級建築施工管理技士即戦問題集(2021年度版)市ヶ谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容			回数	授業項目・内容	
	1	1章 建築学 01 環境工学			16	16 安全管理 / 小テスト④	
	2	02 構造力学			17	5章 建築施工 17 地盤調査	
	3	03 一般構造			18	18 仮設工事	
	4	04 建築材料 / 小テスト①			19	19 地業	
	5	2章 共通 05 舗装・植栽工事			20	20 土工事	
	6	06 建築設備			21	21 鉄筋コンクリート工事	
	7	07 設計図書・測量 / 小テスト②			22	22 特殊コンクリート工事 / 小テスト⑤	
	8	3章 建築法規 08 建築基準法			23	23 鉄骨工事	
	9	09 建設業法			24	24 木工事	
	10	10 労働基準法			25	25 防水工事、石工事	
	11	11 労働安全衛生法			26	26 タイル工事、屋根工事	
	12	12 環境保全関係法、その他 / 小テスト③			27	27 金属工事、左官工事	
	13	4章 施工管理法 13 施工計画			28	28 建具工事、塗装工事	
	14	14 工程管理			29	29 内外装工事、建設機械 / 小テスト⑥	
	15	15 品質管理			30	総まとめ / 模擬テスト	
	授業外学修指示						
・当日の授業範囲に係るテキストの該当部分を事前に読んでおく事。特に専門用語を理解しておく。							
評価方法	(1) 模擬テスト(筆記)を実施する。(2) 小テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬テスト	○	◎				70%
	小テスト	○	◎				30%

<b>履修上の注意</b>	出席数が全体の2/3に満たない場合には、単位を与えない。またゼミ受講に対する意欲が感じられないと判断した場合は、ゼミへの出席停止を指示し単位を与えない事がある。						

科目名	専攻ゼミ I A(リフォーム)					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	徳田 美穂子	
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事	
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年					
授業概要	近年、建築業界において既存の建築物を新たな形へとリフォームする事例が多くなっている。リフォームは既存の構造の中で、もしくは構造を新たな形に組み替え設計を行う必要がある。つまりは建物の構造を理解しておかないとリフォーム設計はできないこととなる。この授業では実際のRC造のマンションのリフォーム設計を行いリフォームについて学んでいく。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					リフォーム全体の概要説明ができる
	○					RC造の構造について分析することが出来る
	○					RC造のリフォーム設計計画ができる
	○					設計プランのプレゼンテーションが出来る
テキスト・教材 参考図書	特になし。適宜プリントして配付する。					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ガイダンス 課題の説明(木軸塔制作) グループの発表			各自、資料集めを実施	
	2	役割分担 コンセプト作成 エスキース制作			エスキースの作成を行うこと	
	3	エスキース完成 模型製作開始			エスキースの作成を行うこと	
	4	模型作成			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	5	模型作成			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	6	模型作成			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	7	プレゼンテーション資料作成			プレゼンテーションの構成のシュミレーションをする事	
	8	プレゼンテーション、講評			プレゼンテーションの構成のシュミレーションをする事	
	9	ガイダンス 課題の説明(RC造)			この課題の振り返りしておくこと	
	10	課題分析・資料集め			各自、資料集めを実施	
	11	エスキース(構造の確認・コンセプト設定)			エスキースの作成を行うこと	
	12	エスキース(ラフ図面)			エスキースの作成を行うこと	
	13	エスキース(ラフ図面) ラフ図面提出コンセプトの教員確認			エスキースの作成を行うこと	
	14	6回目を受けてのラフ図面・コンセプトの修正			エスキースの作成を行うこと	
	15	図面作成 タイトル・コンセプト			エスキースの作成を行うこと	
	16	図面作成 平面図			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	17	図面作成 内観パース 構図検討			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	18	図面作成 内観パース① 下書き			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	19	図面作成 内観パース① ペン入れ			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	20	図面作成 内観パース① 着色			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	21	模型作成 部材枠取り			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	22	模型作成 部材切抜			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	23	模型作成 部材組合せ			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	24	模型作成 細部作成			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	25	模型作成 部分修正			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	26	模型作成 仕上げ			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	27	プレゼンテーションデータ作成			プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと	
28	課題発表シュミレーション			プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと		

	29	発表と講評	この課題の振返りをしておくこと				
	30	発表と講評②	この課題の振返りをしておくこと				
評価方法	(1)作品の提出状況および作品内容 (2)制作発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題内容		○				70%
	発表		○				30%
履修上の注意	出席率60%未満者には単位を付与しない。						

科目名	専攻ゼミ I B(設計)(必修選択)※A					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	徳田 美穂子	
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事	
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年					
授業概要	1年生で学んだ建築知識を基礎に調査・企画・設計の自ら行い、CADやillustrator&Photoshopで製図スキルを磨き模型制作とプレゼンテーション能力を学ぶ。					
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					プランニング・デザイン・コンセプトをプレゼンできる
	○					数多くの情報を収集し必要な情報のみを分析しオリジナルのプランニングにまとめる
	○					現地調査・事例調査を現地に行き自分の目で見て実行できる
	○					グループワークでチームにより多く貢献できるよう努力する
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	課題説明・グループ編成・スケジュール説明			各自、資料集めを実施	
	2	資料収集・個別コンセプト・エスキース			各自、資料集めを実施	
	3	資料収集・個別コンセプト・エスキース			各自、資料集めを実施	
	4	資料収集・個別コンセプト・エスキース グループ内発表会			各自、資料集めを実施	
	5	グループ内でエスキース			エスキースの作成を行うこと	
	6	グループ内でエスキース			エスキースの作成を行うこと	
	7	グループ内でエスキース・図面制作			エスキースの作成を行うこと	
	8	図面制作			エスキースの作成を行うこと	
	9	図面制作			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	10	図面制作			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	11	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	12	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	13	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	14	中間発表			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	15	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	16	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	17	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	18	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	19	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	20	模型仕上・写真撮影			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	21	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作			プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと	
	22	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作			プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと	
	23	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作			プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと	
	24	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作			プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと	
25	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作			プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと		

	26	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	27	総仕上げ	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	28	課題発表シュミレーション	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	29	発表と講評	この課題の振り返りをしておくこと				
	30	発表と講評②	この課題の振り返りをしておくこと				
評価方法	(1)作品の提出状況および作品内容 (2)制作発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題内容		○				70%
	発表		○				30%
履修上の注意	出席率60%未満者には単位を付与しない。						

科目名	建築設計製図Ⅲ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅲ						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	古賀 俊光		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて建築デザインに従事		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	建物の概要は設計図で表現される。そのため設計図を正しく読み取る力および正確に表現することが求められる。本授業では、1年時に習得した製図技術をより深めるため、あらゆる構造の建築物の図面作成に挑戦し表現力・手法・図面内容の理解を目指す。2級建築士の2次試験(製図)の対策としても位置付ける。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○			製図の基本に則して実際の建築物を図面化することができる。	
		○	○			製図の基本に則して鉄骨造の建築物の配置図及び平面図を作図することができる。	
		○	○			製図の基本に則して鉄骨造の建築物の断面図及び立面図を作図することができる。	
		○	○			製図の基本に則して鉄骨造の建築物の矩計図を作図することができる。	
	○	○			2級建築士の2次試験である設計製図の作図をすることが出来る。		
テキスト・教材 参考図書	彰国社 定番建築製図入門						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	(7号館) 配置図			締切を確認し計画的に進めてください。		
	2	(7号館) 5階平面図			締切を確認し計画的に進めてください。		
	3	(7号館) 立面図			締切を確認し計画的に進めてください。		
	4	(7号館) 立面図2			締切を確認し計画的に進めてください。		
	5	(7号館) 断面図			締切を確認し計画的に進めてください。		
	6	(7号館) 断面図2			締切を確認し計画的に進めてください。		
	7	(鉄骨造2階建て)配置図兼平面図の作成			締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事		
	8	(鉄骨造2階建て)平面図および南立面図の作成			締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事		
	9	(鉄骨造2階建て)東立面図およびA-A'断面図の作成			締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事		
	10	(鉄骨造2階建て)矩計図の作成			締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事		
	11	(2級建築士対策)木造2階建て 平面図			締切を確認し計画的に進めてください。		
	12	(2級建築士対策)木造2階建て 立面図・床伏図			締切を確認し計画的に進めてください。		
	13	(2級建築士対策)木造2階建て 矩計図			締切を確認し計画的に進めてください。		
	14	(2級建築士対策)RC造 平面図			締切を確認し計画的に進めてください。		
15	(2級建築士対策)RC造 立面図・断面図			締切を確認し計画的に進めてください。			
評価方法	(1)課題の提出内容 (2)課題の提出枚数(締切後は受け取りません) ※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題評価		◎	○			60%
	提出枚数		◎	○			40%

<b>履修上の注意</b>	<p>①提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない場合 ②出席回数が授業回数の2/3に満たない場合 ①もしくは②にどちらかに該当する場合は単位を与えない ※参考(提出枚数について): S評価:すべての課題を提出 A評価:提出枚数が全体の9割以上 B評価:提出枚数が全体の8割以上 C評価:提出枚数が全体の7割以上 D評価:提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない</p> <p>※提出枚数の評価に加え、図面の仕上がり具合により評価は上下します。</p>
---------------	---

科目名	BIM専攻ⅡA(選択)						
科目名(英)	Building Information Modeling ⅡA						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	道脇 力		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築工学科・建築CAD科・インテリアデザイン科・建築学科(昼) 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ARCHICADのチームワーク操作の習得。</li> <li>・課題の制作を通じた実践的な表現技術の習得。</li> </ul>						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				チームワーク機能を効果的に活用してモデリングを行うことができる。	
	○	○				課題に必要な情報収集を行うことができる。	
		○	○			ゾーンツールを使ってポリウムスタディができる。	
テキスト・教材 参考図書	木造住宅入力ガイド(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	チームワークの概要、モデル入力「木造軸組①」			テキストを見て予習を行うこと		
	2	モデル入力「木造軸組②」データチェック			前回の復習を行うこと		
	3	課題:複合ビル「情報収集」			情報、資料収集を行うこと		
	4	課題:複合ビル「エスキス①」			情報、資料収集を行うこと		
	5	課題:複合ビル「エスキス②」			情報、資料収集を行うこと		
	6	課題:複合ビル「エスキス③」			情報、資料収集を行うこと		
	7	課題:複合ビル「制作①」			情報、資料収集を行うこと		
	8	課題:複合ビル「制作②」			情報、資料収集を行うこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品	○	◎				50%
	課題提出		◎	○			50%
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。						